



発行・編集 財団法人岡本国際奨学交流財団 263-0023 千葉市稲毛区緑町1丁目19番11号 TEL043-248-8808 FAX043-238-4138
 osf-midorii1911@codan.ocn.ne.jp http://www.osf-family.com

OSF(Okamoto Scholarship Foundation)の活動案内 1、留学生宿舍の運営 2、留学生へ奨学金の支給 3、留学生の学習&人生相談・国際交流

新しく社会に羽ばたく皆さんへ

理事長 岡本和久



桜の満開の時期を迎えた。この時期は財団でも巣立っていく仲間や新しく入ってきた仲間がいて、寂しいような嬉しいような複雑な気持ちになる。

皆さん、これから共に明るく元気で前向きにがんばっていただきたい。

今回は新社会人になる仲間日本の父親として送る言葉を伝えたい。

最近の若者は飽食の時代に生まれ、また少子化の影響が、苦労知らずの個人主義の人間が多くみられる。仕事に対しても覇気がなく、また覇気があっても仕事を自分の栄達のための手段と考えている若者が多いように思われる。

もちろん生活の糧を得るために働くことは大切だ。しかし、「人はパンのみに生きるにあらず」と聖書の一節にもある。

自分の生まれた世の中に感謝して、少しでも恩返しをしようとする高い志がなければ、仕事に対する姿勢が定まらないし、熱意も長続きしないと思う。

先日読んだ本に次のような一節があった。大銀行の頭取の入社式でのあいさつ。

「新入社員諸君の心の中から『オ・イ・ア・ク・マ』を追放しよう」との言葉である。それぞれ頭文字で、オは怒るな、イは威張るな、アは焦るな、クはくさる(がっかりして元気を失う)な、マは負けるなである。

怒ったり威張ったりする行為は、他人より無理して優位に立とうとする気持ちの表れであり、反面焦ったり、くさったりする行為は他人に比べ劣勢に立たされた時の消極的な気持ちの表れである。負けるとは、他人とではなく、自

分自身の気持ちに負ける心の弱さである。

昨今の受験戦争や就職難など、競争原理の社会の中で生きてきた若者にとって、「オイアクマ」的心理はわからぬでもない。

しかし、頭取の言葉は自分自身を冷静に見つめ、他人との比較に動揺しない自分の人間力を高めることの重要性を強調している。

この自分自身を高めるために、私は二つのことを勧めたい。まず第一は読書である。それも専門書や軽い小説ではなく、古くから読み継がれてきた古典をお勧めする。これは亡き会長がいつも言っていたことだ。たとえば中国の論語や、キリスト教の聖書、または偉人の伝記等である。

2千年以上の風雪に耐えてきたこれらの本には、短い今を真剣に生きる者へ力を与えてくれる言葉が詰まっている。

第二は良友である。進む分野は異なっても、同じ価値観の友達に人生の宝である。このような友との将来の夢や生き方についての語らひは、生きる上で大きな力になると思う。真の友との交流は生涯続くものだ。以上の二点はぜひお勧めしたい。

中国に「修身、齐家、治国、平天下」という言葉がある。平天下すなわち、平和な世の中にするための順序であるが、まず修身、すなわち自分自身を見つめ、人間を向上させることが一番大切だと言っている。

新社会人として巣立っていく皆さん、どうか胸をはって堂々と生きてください。もし、悩んだり落ち込んだりした時には財団はいつでも待っています。

OSF2012 年度前期行事予定

4月18日	会館生・家族寮例会
5月12,13日	奨学生房総旅行
5月16日	会館生・家族寮例会
6月6日	役員会
6月8日	奨学生例会
6月13日	会館生・家族寮例会

7月8日	OB会 パーベキュー
7月10日	奨学生例会
8月5~7日	広島慰霊祭参加
8月中旬	鴨川海水浴
9月6日	奨学生例会
9月19日	会館生家族寮例会

1月1日、財団成立以来、評議員として財団を支えてくださった中島久光氏のご逝去されました。
 謹んでお悔やみ申し上げます。

4月はどこでも移動の時期。みなさん、OSFへも住所変更の連絡を忘れずに！

オマル・ムザパル（家族寮） 中国（新疆ウイグル）

福島大学 共生理工 システム専攻

専攻科目の選考と将来の目標

現在、私は千葉大学環境リモートセンシング研究センターで、合成開口レーダ画像信号処理の開発について研究をしています。画像信号処理は、地面からレーダのセンサーに戻ってきた信号を使って人の目で直接見える画像を作る操作です。私は今、もっと早く、高精度の処理方法を探すために研究室の皆さんと一緒に頑張っています。

私は中国の西側、新疆ウイグル自治区で生まれ、高校が終わるまでそこに住んでいました。大学は中国の南の町杭州で、4年間の情報工学の勉強でした。私の故郷新疆ウイグル自治区は広州とも、日本とも違う、まだ発展する途中のところで、科学技術、町の建設、社会の治安特に環境汚染など色々な方面ではまだよくない状態です。私がかつて分かった時には大学を卒業した後でした。その時から、海外に行き、他の国の良い点を見て、もっと深い知識を得て、優秀になりたいという気持ちになって、さらに、2009年年末に日本へ留学にきました。

日本で勉強したものをたくさん人に伝えたいという気持ちで、故郷の新疆大学でまだ設置されていないレーダ信号処理を専攻する気になりました。

私は新疆大学で就職したいという目標があります。日本で勉強してきた新しい技術を新疆ウイグルの環境問題を改善するために使いたいです。今新疆ウイグル自治区では環境問題は第一の問題になってきました。森林と植物が減少したから夏は非常に暑くなったり、南の地方でいつも砂嵐が吹いたりします、冬には車と煙突からの煙で、さっき降ったばかりの雪もすぐ黒くなっています。砂漠がどんどん大きくなって、水が少なくなって、人々の生活に大きく影響しています。これ全部はそこで生活している自分たちが環境を大事にしなかったせいでした。また昔と同じきれいな町を取り戻すために、私たちこの若い世代が頑張らなければならないことだと思います。今千葉大学環境リモートセンシング研究センターで頑張っている4人のウイグル人と一緒に頑張ってみます。



梁 馨（奨学生）

中国（四川省）

千葉大学 工学研究科人工システム科学専攻機械系

日本の食事文化から学んだこと

私は二年半前に日本へやってきました。日本に来る前、来日経験のある先輩達から、同じ漢字を使う中国人が間違えやすい、日本の言葉について色々教えていただきました。例えば、中国人は「手紙」という文字を見たら、トイレットペーパーのことだと思ってしまいます。また、「OK」の意味を表したいとき、「良いよ」ではなく「お願いします」と言ってしまう。しかし、実際に日本で生活してみると、言葉遣いよりももっと大きな両国の違いを感じました。それは、私達の生活と深く関わっている食事文化です。

研究室に所属し、初めて研究室の方と一緒にいった食事は、インドカレー屋さんでした。全員が残さず食べているなか、私は御飯を食べきれませんでした。すると、「中国では御飯を残すのですか？」と聞かれました。「いや（笑）、すみません。お腹が一杯です。」この母国で想像できないこの一言にとて驚きました。日本の皆様は御飯を残しません。中国の常識では、特に外食の時、残さず食べてはいけません。食前の「いただきます」、食後の「ご馳走でした」のように、食事を大事にする日本では、あり得ないことです。「何故中国ではご飯を残すのか？」この昔からあった習慣に正確には答えることができません。

ん。まだ御飯が食べ足りないことを表してしまうとか、御飯を食べるためだけに一緒に食事をしていると思われぬようにとか、何らかの理由で始まったかもしれません。ただ、「中国には日本みたいな節約しない理由はあるか」と自分自身に問いかけてみると、古代の内戦や近年の自然災害を見ると、そうでもないかと答えるしかありません。日本は先進国ですが、節約を忘れません。或いは、この忘れない精神があったからこそ、先進国の一員になれたのだと思いました。

また、日本人の家庭に食事に招かれた際、家庭料理は日本の伝統的な料理であるお寿司・刺身ではなく、パスタ・カレー・中華料理であることを教えていただきました。こんなに外国の料理を食べていることは、家庭料理が主に中華料理の中国では見たことがありません。もしくはそれはもはや外国の料理ではなく、和食になった料理かもしれません。電車はドイツ人が発明したのですが、いまや日本の新幹線の技術は、電車の故郷のドイツの技術力よりも優れています。このように外国の文化を取り入れる日本の能力には驚かされます。

日本の食事文化から日本人の自制心、勤勉、知識の活用等、様々な母国との違いを感じました。これらの違いが今の私を成長させています。この違いを見つけることも留学の最大の収穫の一つだと思いました。



孫 宏晨（奨学生）

中国（内蒙古）

千葉大学工学研究科 建築学コース

日本の習慣や常識で中国との違いについて

日本と中国は、東アジアの隣国で昔から儒教、仏教の広がりによって漢字や建築様式など様々な文化においてお互いに影響を与え合っていた。アジア以外の国から見た日本と中国は、文化、飲食、生活習慣など近いところが多くある。

「似たような顔をしている日中両国の人たちは大体同じよ

うな文化、生活習慣を持っている」西洋人はこのように思うかもしれないが、実際に生活習慣や価値観などにおいて日中両国は違う面が沢山ある。

前日、ある面白い番組を見た。「嫁ぐなら日中韓でどっち？」と言うテーマで、三つの国はそれぞれ違う習慣や常識があらわれたようだ。中国のように姑さんが家事までやってくれるのは、日本なら想像が難しいでしょう。また、中国では、結婚する前に男性



のほうから家を用意する場合が多い。日本では、こういう習慣がなく、新人の二人が自力で頑張っていくのがほとんどだと思う。

最近よく話題になっているマナーの問題については、「日本人は礼儀が正しい、中国人はマナーが悪い」世界からこう言った評判で日本人と中国人を見分けている。世界各地に訪れた観光客を観察して見ると、礼儀正しく、謙虚で、話し声が小さいのが日本人。ところかまわず座り込み、歩きながら怒鳴り声で話す、マナーやエチケットなど完全に無視するのが中国人だと言われる。確かに、日本人はいつでも自分のことが他人に迷惑をかけないように考える習慣があるからこそ、日本人の良いイメージが伝わって

きたのではないと思う。

日本に来た最初の頃に見たことだが、電車構内で二人の係員が丁寧に障害者を助ける姿が今にも頭に残っている。バスや電車が時間どおりで運行していることやエスカレーターでの並ぶ列など、どこでも良い秩序が見えることに本当に驚いた。謙虚なサービス精神かつ他人のことを配慮するという習慣は今の私たちにとって最も学ぶべきではないかと思った。留学しに来た私は、こうした日本の異なる文化、習慣に触れ、貴重な経験ができたと思う。将来、母国に帰国したら、日本で体験した良いことをもっと多くの人に伝えたいと思う。

梁 珍榮 (奨学生)

韓国(全羅南道)

千葉大学 工学研究科建築・都市科学攻

日本の習慣や常識であなたの国との違いについて

日本に来て3年が経った現在、私が感じた日本の習慣や常識で私の国と違う点は大きく二つが挙げられます。

一つ目は食べ物です。日本の場合は、多様な味を吟味する習慣が身についていると思います。いろんな食べ物そのものの味を感じ、少しずつ食べながら一味違う味付けを加え、多様な味を吟味する文化が染み込んでいると思います。それに比べ、韓国の場合は、包む、混ぜるという習慣を持っています。サムギョブサルやビビンバという定番料理のみならず、普段家でも汁にご飯を入れ、混ぜて食べる習慣があります。その理由については立場によって違うと思いますが、食べ物を提供する側では色んなものをたっぷり盛り合わせておもてなしをしたいという情を表現する一方、食べる側では、混ぜて食べると簡単に色んなものが食べられるし、色んな味が一気に味わえる為だと思います。

二つ目は規則を守る意識です。日本の場合、市民意識の中でよく見られます。昨年大震災があった時に証明されたように、日本は混乱な時期でも普段のように規則を守り、秩序を維持しています。それは、普段から電車や店の前でも多く見られますが、特に道路で車が停止線や信号をちゃんと守る一方、歩行者が無断横断する姿はめったに見られません。それに比べ韓国の場合はより早く行くために、より早く発展させようとする意識のために規則が崩れる場合がよく見られます。それには根底にある意識の差が原因だと思われます。特に日本は他人に迷惑をかけないこと、韓国は誰より一番になることを優先に考えることが原因ではないかと思います。その為、日本はきちんとした分析の下に規則をつくり効率性を高めているが、新しい挑戦には他人との意見が合意形成されるまでなかなか進まない傾向も見られます。一方、韓国は発展する速度は速いが、個性が足りない面が多く見られます。



しかし、二つの国には独特の習慣や意識があり、その違いがあるからこそそれぞれに楽しめる価値があるのではないかと思います。

ビャンバドルジ・メンドバヤル (会館生)

モンゴル(ウランバートル)

千葉大学 融合科学研究科 情報科学専攻

専攻科目の選考理由と将来の目標について

日本はアジアの中で科学と技術レベルが非常に高い、世界的に認められた大国である。私は中学時代に初めて先輩たちの会話から日本に留学することができるという話を聞いて、モンゴルだけでなく世界に要求される知識を勉強するために日本に留学すると決めました。現在、日本に留学中で、津山工業高等専門学校を卒業して千葉大学に編入して1年経っています。

津山高専ではバスケット部、システム開発・研究部、陸上競技部、数学クラブで部活動していました。成績はシステム研究部で2008、2009年のACM国際大学対抗プログラミングコンテストアジア大会に津山高専代表として参加しました。また、陸上競技部を真剣に取り組み2009年に宮崎で開催された45回中国高専大会に出場し優勝、全国高専大会で7位入賞しました。数学クラブでは、東京大学で研究していた問題について発表され、津山高専で非常に充実した学生生活を送ることができました。

パソコンや組み込み機器などを信頼性の高い、効率と性能のよいプログラミングができる人は世界に求められる人材になっています。私の津山高専での研究テーマは「自転車ロボットを制御するC言語プログラミング」です。本研究を通じてプログラミングの知識や、プログラムの信頼性と性能をアップさせるプログラム作成者の責任や技術について学ぶことができました。私はプログラミングや理学の知識を情報画像工学で活かすために千葉大学の情報画像工学科に編入しました。現在千葉大学4年に入って充実した学生生活を送っています。



大学卒業後は大学院に進学し、さらに博士課程まで研究を続け、深い専門性と広い知識を持った体力と能力の高い人材になりたいです。また、日本だけでなく、たくさんの優秀な先生たちに出会って、世界的レベルの論文や発表を拝見し、機会ができれば発表もしたいです。そして、将来日本でもらった知識で日本の貢献に10年ぐらい働いて経験を活かし、モンゴルに帰って日本・モンゴルの交流を深めるために頑張りたいと思います。

3月9日奨学生、3月28日会館生の例会、お別れ会で寂しく感じられるのは仕方がないが、会長の片身のネクタイをしめてみせたり、なごやかな雰囲気だった。

卒業する人もいつでもまた顔を見せてほしい。
待っています。



また、みんなで
集まりますように



呉せいれいさん

3月下旬、各大学で卒業式が行われた。皆さん、おめでとうございます！



ノイ君

4月2日、王萍さん(H19 奨学生、中国)夫妻が来団。今春無事卒業だそうだ。



OB 消息

2月1日、家族宿舎のラナグリさん(中国ウイグル自治区)に長男誕生。健やかに育つことを願っている。

2月16日、家族宿舎OBのチー君、ミピンさん夫妻が来日。昨年生まれたミン君も元気に育って、愛らしい。

3月10日、山口さん一家(H5 会館生、日本)が来訪。2男1女のパパとして貫禄いっぱい。

4月5日、エンクザヤさん(H17 奨学生、モンゴル)が来団。4月7日に帰国とのこと。取得した博士号を生かしてがんばってほしい。

3月30日、モニラさん(H16 会館生、カンボジア)が来日し、昔の仲間が集まった。彼はカンボジアで会社の社長になった。これからが楽しみだ。



4月13日、財団一期生の余永輝さん(H4 奨学生、中国)が来団。今、杭州で手広く事業展開している。



3月31日、李潤貞さん(H22 奨学生、韓国)の結婚式がありました。



4月10日、福田絵美さん(H8 会館生、日本 旧姓石川)が来団。ご主人の仕事の関係で今はロンドン暮らし。楽しい話を聞かせてくれた。

4月4日、会館生みんなでディズニー・シーへ行く。朝早くから、目いっぱい楽しんだようだ。

先日、チャンディさん(H11 会館生、ネパール)から嬉しいメールをいただきました。

「お久しぶりです。桜が咲きましたね。来日16年目。みつわ台の寮を思い出します。

因みにチャンディの取り込みがソフトバンクホームページに出ています。」

http://recruit.softbank.jp/senior/project/thin_client/

～チャンディさんの発明に対し、会社から社長賞が贈られたという記事です。～

皆さんの活躍している姿を知るのは何よりもうれしいことです。

**社会で頑張っている皆さん、
ぜひ近況をお知らせください！！**

会館ニュース

会館委員長の選挙が行われ、第20代委員長にエルデネさん(モンゴル・千葉大)が就任。

入居者にも移動があった。ソン君(ベトナム)とスリボン君(ラオス 通称ノイ君)が退館。ルーン君(ベトナム・千葉大)が新たに仲間に加わった。ソン君、ノイ君とも長い間、会館のために尽くしてくれた。ありがとう！

この冬は会長のため、たくさんの方たちが財団を訪れ、線香をあげてくださった。奨学生、会館生は何度も足を運んでくれ、我々を励ましてくれた。徳志偉さん(H12 会館生、中国)は会長を慕ってすぐに駆け付けて、悲しんでくれた。朝鴻さん(H10 奨学生、中国)夫妻、丁麗さん(H17 奨学生、中国)、時代さん(H15 家族寮、中国)ほか多数の方が来て下さった。心から感謝致します。